

職場のサポートと入居者さんの応援の声 周囲に支えられ、働き続けて契約社員へ

キャリアアップ

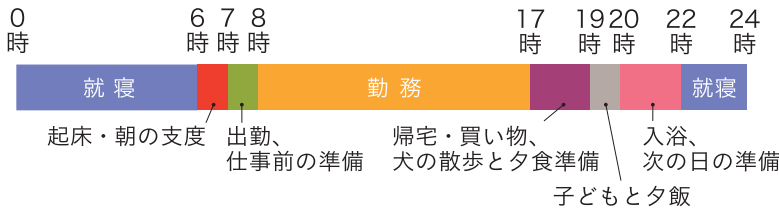
森永さおりさん / 48歳

特別養護老人ホーム マナハウス
施設スタッフ (パートから契約社員へ)

キャリア

20歳頃	洋服の店舗販売にパート勤務
30歳頃	子育てに専念
42歳頃	障害者入所施設でパートを始める
44歳頃	マナハウスでパートを始める
48歳	契約社員へ

ある日の1日



POINT

- 自分で考え、自分で動ける仕事に楽しさを感じる
- 身近な接点ときっかけを通じて、介護の仕事の世界に関心を寄せる
- 職場のサポートと、入居者との交流を支えに、大変な介護の現場で働き続ける

！ 福祉の仕事をする前は何をしていた？

— 自分で考え、自分で動ける仕事が楽しい

夫が単身赴任をしていることもあって、ここ10年くらいの間は子育てに専念していました。その前は、最初に建設会社の事務の仕事に就いて、その後は洋服の販売・接客を10年弱していました。それぞれ働いてみて、事務作業は自分に合っていないと思ったんですけど、洋服の販売・接客は楽しかったですね。洋服の販売時代は、困った時は、上司・同僚に相談しながらも自分で試行錯誤できたりして、自分で考え・自分で動けるところがよかったんだと思います。

学生時代は人と接することって好きではなかったんですけど、社会に出てからいろいろな年代の人と交流するようになってから、感じ方が変わっていきました。

— マナハウスという介護施設との出会い

子どもが大きくなって、少しずつ手がかからないようになってきた時に、友達に誘われて、障がい者の入所施設の面接を受けて、パートを始めました。そこでは、入浴、食事、排せつなどのお世話をしていました。今と近いですね。

そんなとき、マナハウスの「木の葉モールへのお出かけイベント」で急遽人手が足りなくなったということで、PTAつながりでヘルプの連絡が入ったんです。時間があつたので手伝いに行ったんですが、100歳間近のお年寄りの方と接する中で、マナハウスへの興味が湧いてきました。そんな時に、別の友達がマナハウスに見学に行くというので、「施設の中を見たい！」とついていったことが最初です。

！ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 施設のリーダーのサポートと入居者さんとの交流が支えに

洋服の販売とは違って、何よりも人と接することが中心の福祉の仕事では、初めから戸惑いも怖さもありました。マナハウスで働き始めて4年程。先日契約社員になりました



が、まだ覚えることもたくさんあって、いっぱい苦労しています。例えば、車椅子やバスタブへの移動介助をする時にぶつけて怪我をさせないか、緊張続きです。以前はこのまま続けられるのかな、と思ったこともありました。

その時は、施設長やリーダーが親身になって相談に乗ってくれて、休みを提案してもらえたり、仕事の内容・量を見直してもらったり、合わせて施設全体としても自分の状況を受け止めてくれて、働き続けられています。辞めずに続けたからこそ、気持ちも前向きになれた気がします。そうでなければ、今でも引きずっていたかもしれません。

それと、入居者さんとは、昔の話を聞きながら、楽しく、笑いながら会話しています。担当するフロアを異動するときに、入居者さんからもらった「あなたならどのフロアに行っても誰にでも好かれるからね」という言葉をよく覚えています。もうちょっと頑張ろうと思えました。

！ 介護の仕事以外で、あなたについて教えてください！

— 子どもの都合に振り回されつつ、編み物も好き

子供の都合に振り回されています(笑)。下の子どもが中学1年生なんですけど、部活でソフトテニスの試合があれば、自分も行きたいので、送りがてら車で一緒に行きます。それと、上の子どもに頼まれば送り迎えをしています。なんかタクシーみたいです(笑)。

あとは、自分ひとりなら家で過ごすことが多いです。編み物が好きですが、最近は忙しくてなかなかできていません。時間があれば、自分が使う小さいバックとか、いろいろ作りたいです。手先が器用というわけではないですけど、何も考えずに集中して編めるのがよいです。朝から没頭して作ってしまうこともありました。



取材を終えて

悩みながら周囲に支えられて介護の仕事続けてきた森永さん。大変なことも多い介護の仕事でも、時に支えを感じられる現場もあるということをもっと伝えていきたいと思いました。